

東京都地方独立行政法人評価委員会
令和7年度第3回公立大学分科会 議事録

1 日時

令和7年7月22日（火曜日）午後2時から午後5時まで

2 場所

東京都庁第一本庁舎33階 特別会議室S2

3 出席者

大野分科会長、梶間委員、小島委員、杉谷委員、十河委員、最上委員、山口委員

4 議題

審議事項

東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討

5 議事

●冒頭説明・挨拶

○大野分科会長 定刻14時よりちょっと早いですが、皆様お揃いですので、ただいまから東京都地方独立行政法人評価委員会令和7年度第3回公立大学分科会を開催したいと思います。

皆様には本日も大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の予定でございますが、会議次第でございますように、審議事項は1件でございます。本日の案件で非公開とすべき案件はございませんので、全て公開とさせていただきます。

それでは、事務局より本日の概要、資料等につきまして御説明をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 事務局の中村でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

本日は、本会場に加えオンラインでも参加いただけるハイブリッド形式を取っておりまして、最上委員と大学法人の出席者にはリモートで御参加いただいております。

御発言を希望する際は、対面の方はその場で、リモートの方はT e a m sの手挙げ機能で手を挙げていただき、分科会長から指名を受けてから御発言をお願いいたします。

また、委員の皆様には、お手数ですが、御発言の際は「委員の〇〇です」とお名前をおっしゃっていただくようお願いいたします。

リモート参加の方はマイク、カメラの設定をオフにいただき、御発言時にマイクをオンに切り替えていただくようお願いいたします。カメラにつきましては、御発言時に任意でオンにしていいただければと存じます。

議事を中心となる資料は会場のモニターに表示するほか、リモート参加の方には画面でお示しします。また、お手元のタブレットのうち1台については、事務局で操作して表示いたします。また、会場ではもう一台のタブレットで資料を御自由に御覧いただけます。画面が映らないなど不具合がございましたら、事務局までお声がけください。

続きまして、本日の配付資料について御説明させていただきます。

まず、議事次第でございます。続いて委員名簿でございます。次に、本日のタイムスケジュールでございます。本日は都立大、産技大、高専、法人の順に、中期計画進捗状況に対する所見素案の審議を行っていただきます。次に資料1、中期計画進捗状況に対する所見の項目別コメント素案となります。こちらは委員の皆様のコメントと、それを事務局で取りまとめた所見の素案を記載してございます。資料2は、中期計画進捗状況に対する所見の総括コメントの素案となります。こちらは委員の皆様のコメントを基に、法人の運営状況について総括したコメントの素案を記載してございます。資料3は、法人から提出のあった令和6年度中期計画進捗状況報告書の概要、資料4は、報告書の本文となります。そのほか、審議の参考となる資料として、評価方法や法人の基礎的なデータ等の資料も必要に応じて御参照ください。

事務局からの説明は、以上でございます。

本日は長時間にわたりますが、何とぞよろしくようお願いいたします。

加えまして、1点補足でございますが、前回第2回公立大学分科会でのヒアリングにおいて各委員から御意見、御指摘いただいた点を踏まえまして、先日、東京都公立大学法人より中期計画進捗状況報告書の差換えの提出がございました。このことにつきまして、素案審議に先立ち法人の経営企画室長より御説明させていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

○大野分科会長 結構です。よろしく申し上げます。

○中村大学法人連携専門課長 では、申し上げます。

○高島経営企画室長 先日のヒアリングにおける御意見、御指摘を踏まえまして、当法人の中期計画の自律的な進捗管理について、より分かりやすく御理解いただけるよう、報告書の記載内容について一部加筆、修正させていただきました。主に令和6年度実績は具体的な取組実績

例を追記し、令和7年度の取組予定については必要に応じて取り組む予定の事項を書き込むなどの形で報告書の記載内容を一部加筆、修正させていただきましたので、御参照いただければと思います。

よろしく願いいたします。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

今、会場ではお手元のタブレットで表示してございます。資料4ですね。報告書の修正があった部分につきましては水色の網をかけてございます。逐語では見え消しにはしてございませんが、前回簡略に記載されていたものに、少し言葉を加筆していただいているところでございます。

本日、御審議いただきます所見の素案は、ただいま法人より説明がございました差替え後の報告書を踏まえて、事務局で取りまとめさせていただいております。

説明が長くなりましたが、以上でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

法人からの書き換えについては、前回の分科会の一番最後に「報告書の中で、異なる年度の間で文言が重なっているところが目立つ」ということで、そのあたりは少し修正してもらったほうがいいのではないかと、ということだったかと思っております。それを踏まえての御修正でございますので、よろしく願いいたします。

●東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討(項目別コメント:東京都立大学)

○大野分科会長 それでは、これから議事に入ります。

まずは都立大に関する所見素案から審議したいと思います。

都立大につきましては大項目が7つであります。資料1の1ページ、大項目1から順に審議を行っていききたいと思います。

まずは大項目1について、事務局から御説明をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 資料1の1ページを御覧ください。

左方に記載がございます大項目が1から25までございますが、その項目ごとに作成しております。上段に中期目標と関連する主な取組、下段の左側に中期計画、右側に中期計画ごとに各委員から頂戴しましたコメントを、◎で示している優れた点・特色ある点と、◇で示している改善・充実を求める点に分けて記載してございます。

次のページを御覧ください。

各委員のコメントを踏まえまして、優れた点・特色ある点、あるいは改善・充実を求める点について所見の素案を記載してございます。

所見の取りまとめに当たりまして、同一の事業について優れた点・特色ある点と改善・充実を求める点の双方の観点からコメントをいただいている場合、可能な範囲で一方に集約してございます。例えば、順調に進捗している事業について、より一層の取組や報告書の記載内容の充実を求めるような場合には、優れた点・特色ある点としての所見を記載し、そこに一層の取組等を期待する旨の所見を追記する形で取りまとめさせていただきます。

この後の御審議の中で、各委員のコメントの趣旨を酌み切れていない点や追加、削除すべき点などについて、御指摘、御意見を頂戴できればと存じます。

それでは大項目1について、まず、どのような御意見をいただいているか概要を御紹介させていただきますまして、続いて所見素案について御審議いただければと存じます。

大項目1についてでございます。

優れた点・特色ある点としまして、都の課題解決に資する調査・研究について順調に成果を上げているという御意見をいただいております。

この項目につきまして、現在の評価指標が新規件数と継続件数の合算の件数となっておりまして、今後の予定値についても合算で記載されてございます。こちらについて新規件数と継続件数に分けてそれぞれの予定値を設定して、バランスよく取組を進めることが期待されるという御意見を頂戴してございます。

次に、都や自治体等との連携による人材育成についてでございますが、着実に実施されているというコメントをいただく一方で、実績や取組予定の内容をより具体的に示しながら実施していくことを期待したいといったコメントも頂戴してございます。

大項目1につきましては、以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、大項目1について審議に入りたいと思います。

御意見のある方はどなたからでもお願いします。

所見としては、改善・充実を求める点はないということですね。

いかがでしょうか。

○梶間委員 ここは数値目標がはっきり「100件」と明記されていて、2年目なのに累計でもう47件まで進んでいて、全体としては順調に進んでいるという評価でよろしいかと思います。

数値目標があったりするので、判断しやすいところでした。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。

拝見したところ、おおむね各委員の意見をうまくまとめているなと思いますし、数値の合算をもう少しバラした形でという点もうまく織り込んでいただいたと思います。これは改善・充実を求めるほどではないのでこういう書き方でいいのではないかと思います、いかがですか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、大項目1につきましてはこれぐらいにしたいと思います。

大項目2に移ります。

事務局から説明をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 続きまして資料1の6ページ、大項目2の所見素案について御説明させていただきます。

まず優れた点・特色ある点としまして、日野キャンパスに新設したTMU Innovation Hubなどを活用し、産学公連携の取組を順調に実施しているという御意見や、ローカル5G環境を活用し、学生が企業と連携して実証実験を行うなどの取組がされている点についても優れた点としての所見をいただいております。

一方で、この点につきましては、5Gが社会に定着していく中で、今後の取組の方向性の再確認が期待されるといった御意見も頂戴しております。

続いては、アントレプレナーシップ教育につきましては、正規の授業科目の新規開講あるいは学内初のビジネスアイデアコンテストを開催するなど、取組を進めているという所見をいただいております。併せて、今後については正規科目の履修者数の増加や関連科目の充実が期待されるという御意見を頂戴しております。

続いて、オープンユニバーシティの受講満足度であったりプレミアムカレッジの出願者数、あるいは学生支援に係る寄附については、評価指標を上回る、あるいはそれに並ぶ実績を上げているということで、順調という所見をいただいております。

地域社会への貢献活動につきましては、障害者スポーツ支援の取組について特色ある取組を実施しているとの所見をいただく一方で、改善・充実を求める点のほうに記載がございますが、報告書の記載内容が障害者スポーツ支援に限定されている状況なので、この点について、より幅広い分野での活動内容を明らかにしながら取組を推進していくことが望まれる、といった所

見を頂戴してございます。

御説明は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

大項目2については、いかがでしょうか。

○小島委員 プレミアム・カレッジの件で私もコメントさせていただきました。

このまとめていただいたコメントの中で「修了生の活躍を示す取組、公開イベント動画のアーカイブの拡充など生涯学習機会の更なる充実に向けた取組……」とあるなかで、私の方からは、具体的に「修了生の活躍を示す取組」というのは修了した後の活躍という意味合いでコメントをさせていただいたのですが、どのような形で修了生の活躍の仕方を示していかれるのかを、改めて確認をさせていただきたいと思います。

○中村大学法人連携専門課長 プレミアム・カレッジに関連しては各委員から、現状としては評価指標を達成するような取組がされているけれども、さらなる取組ということで幾つか御意見を頂戴しました。これを例示のような形で、募集人員の拡大、あるいは修了生の活躍ということで、小島先生からも御意見をいただいているようなところ、そういったものを示していける取組、そして公開イベント等のアーカイブの拡充、様々な形で生涯学習機会のさらなる充実に向けて取組を充実させていくことが期待される、ということでまとめさせていただいています。修了生の活躍を示す取組をどうアピールしていけるのかは、大学法人のほうで今後、所見の内容も踏まえて取り組んでいただければと思っているところでございます。

○小島委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 ほかには、いかがでしょうか。

○梶間委員 まとめの書き方の御相談です。

この2つ目のテーマも評価指標がきちんと決まっている項目が多かったんですけども、優れた点・特色ある点になると、評価指標を達成していても評価指標自体に達成率を書くような書き方はあまりしていないと思います。私は、割と達成率のほうを評価したものですから、どちらの書き方がいいのかなと思ひまして。

○大野分科会長 進捗状況という見方からすれば、達成率も重要な指標ではありますよね。件数だけだと、それが多いか少ないのかもよく分からない。判断しづらいところがある。

○梶間委員 そういう趣旨だったんですけども。

○大野分科会長 例えば、どういうところを変えたらよろしいですか。

○梶間委員 例えば、2つ目の「・」のローカル5Gは実際6件行われて、年間目標5件です

から目標を達成しています、というような書き方なんですけれども。

今年の特徴の1つに、評価指標ごとに、できるだけ数値目標みたいなものを決めているというのがあったかと思しますので、数値を入れられるところは入れたらいいのかなと考えています。でも、これから入れるとまた大変だったりするので、その辺は全部ではなく、拾いやすいところには入れてくれてもいいのかなと思います。

例えば日野キャンパスについて、実際にTMU Innovation Hubを見学して、公立大学でここまでできるのはすばらしいなと本当に感心したものですから、内容的には優れている評価で全然問題ないんですけれども、できたら数値目標を拾ってほしいなという意見です。

○大野分科会長 ということは、都立大学の報告書の中には、達成率という数字では載っていない部分が多いということですよ。

そういう意味で言うと、これから達成率を挙げてくれという話になるとちょっと大事になってしまうので、今回は件数で出していただいたんだけれども、進捗状況を確認するという意味では、今後、達成率などの指標も示していただけるとありがたい。そんな趣旨で、来年に向けて我々の要望ということでいかがですか。

○梶間委員 ここまで実務ができていますので、私も卓袱台返しをするつもりは全くないので。

○大野分科会長 よろしいですか。

○梶間委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 では、そんな形で要望を伝えられるようにして、できればそういう文言を1つ入れて、来年以降は達成率のような指標で、進捗状況がより明確になるようにしてもらいたいということでどうでしょう。

ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。

○十河委員 うまくまとめていただいて、ありがとうございます。

1点、ここに限らない質問かもしれませんが、寄附の件数に関して、6年間で150件という目標を2年経過の段階で既に大きく上回っている状態にあって、評価指標が目標という意味ではもう余り意味をなさない状態になっていると思われましたので、今後、目標の再設定があってもいいのではないかとコメントしております。一方、まとめていただいたコメントでは、私が「目標の再設定が望まれる」と書いた部分はあまり取り上げられてはいない感じもあって、これはここに限らないと思いますけれども、中期目標期間の途中ではあるんですけれども、評価指標を設定し直すという取り扱いに関わる部分なのかなとも思ったものですから、

ちょっとそこを確認させていただければと思います。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

今回の中期計画の進捗状況確認の取組は、1つは、法人の自主的な事業管理ということで実施していただきながら、それを都として、あるいは分科会の先生方に御確認いただいています。中期計画につきましても、元々は法人がつくったものを都が認可して、その中で評価指標として数字が設定されているところではあります。今回、第四期中期目標期間の2年目が終わったタイミングではあるんですが、中期計画そのものを随時見直すのか、あるいは中期計画としてはもともとの設定を置きながら、さらに実際の運営の中で実情を踏まえて、どういうところを目指して取り組んでいくのかを明らかにしていくというやり方、いずれもあり得るのかなと思っております。都側の審議会の立場から、直接的に、所見として明確な形で、目標値あるいは計画値を再設定してくださいというところまでは踏み込まずに、婉曲的な表現でそのあたりを求める表現にしております。

それでは抽象的過ぎるということになるかもしれませんが、今、お話しいただいたあたりも、「寄附の一層の増加を目指して取り組む」ということで、そもそもの150件という目標を見直せというよりは、一層の増加を目指せという所見とさせていただいているところです。もう少し踏み込んだ表現が望ましいということでございましたら、また法人側とも話をしながら、どういったところがこの仕組みにふさわしい所見か御相談させていただければと思うところでございます。

○十河委員 分かりました。

○大野分科会長 事前の打合せのときに「社会状況等を踏まえて機動的に目標を見直すなどの」うんぬんという文言があったと思いますが、あれはどこでしたっけ。

○中村大学法人連携専門課長 それは、総括のほうに書かせていただきました。後ほど御覧いただくところではあるんですけども。

個別の項目に関しては、先ほど申し上げましたように、直接的に目標の再設定を求める所見素案にはしておりませんが、総括的なところでは、分科会としての所見のポイントになるところということで、少しはっきり書いてございます。個々のところについては、やや婉曲に表現して、それぞれの所管部署も頂戴したこの御意見を拝見するかと思っておりますけれども、計画の再設定というところにまでは触れずに、取組を促すような書きぶりにさせていただいているところでございます。

○大野分科会長 寄附については目標を達成してしまったんだけど、未達の場合もありま

すよね。例えば国際化について言うと、どんなに都立大が頑張ったとしても、社会状況でそこまでなかなか難しいよねという事情もあります。だから、達成したのもあれば未達のものもあるため、それを機動的に考えていいのではないか、という内容を総括コメントの最後のところで、二、三行でまとめてあります。

では、それは最後の総括のところでまた御意見をいただくということで、よろしいですか。

○十河委員 昨年そういう経緯があったことと、今回、今のような論点で、各論に関しては再設定うんぬんは書かずに全体の総括で触れるということについて、承知しました。

○大野分科会長 では、そういう方向で、後で確認することにしたいと思います。ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。

私から1点。

これは書き直してほしいということではないけれども、優れた点の3つ目の「・」のアントレプレナーシップ教育について、入門の科目をやって、その後すぐにアイデアコンテストになってしまうのではないですか。たまたま私がちょっとそういうことをやってきたという経緯もあるんだけど、入門で意識を高めたら、アイデアコンテストでうまくいくかということ、そういうわけではありません。やる気はあっても、どういうふうに新ビジネスを展開するかというのは知識やノウハウがある程度積み重なっていかないと、結局、ジャストアイデアの、そのコンテストだけで終わってしまいます。「おもしろかった」「楽しかった」「できたらいいよね」で終わってしまって、結局、最後のスタートアップのところにつながっていないという場合もあるかもしれません。

そういう意味で言うと、やはり今後、アントレプレナーシップのカリキュラムをちゃんと作っていかれるほうがいいのではないかと思うんです。そのほうが学生のスタートアップ等にもつながっていくと思います。

このようなつもりで、先日申し上げたつもりなんでしょうけども、その意図が都立大のほうには全く伝わってなかったもので、よければそんなふうにかリキュラム化して行って、その中にビジネスコンテストがあるようにして、学生が本当にスタートアップをやりたいとなったらインキュベートしていくみたいな、そういう一連の流れをつくっていくといいと思うんですよ。

そういうことをやっている大学は既に結構あるんですよ。立命館もそうだし、早稲田もそうだし、名古屋大もそうかな。結構、そういう成功事例があるから、そういうものを参考にされながらやっていくと、もっともっと充実するのではないかと思うので、もしよろしければ、そ

んなことをお伝えいただければありがたいと思います。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

すみません、お話しいただいたところを十分酌み切れておらなかったかもしれませんが。

○大野分科会長 いや、そんなことはないですよ。「関連科目の充実が期待されている」ということで「充実」という言葉が入っているとは思っているので、別に文言はいいんだけど、ちょっと前回のやり取りで、言おうとしたことを私がうまく言えなかったところがあったので。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

○大野分科会長 ほかには、いかがでしょうか。

最上委員、よろしいですか。

○最上委員 今、大野分科会長が言われたことと全く同じことを感じていました。入門科目によって学生を引き込んでも、その後、学生がその先に進めないという状況が一番危ないと思います。前回、私も同じようなことを申し上げたと思うんですけども、そこが少し反映されてもいいのかなという気がします。その次の、カリキュラム化ということも大野分科会長が言われましたけれども、要するに、後まで面倒見ることが重要だと思います。

それから、これは直接関係ないんですが、この手の取組を行うときに、セーフティネットを考えないといけないのかなと思っています。

やる気になった学生をさらに後押しするということと、やる気になった結果、駄目だった学生を救う、というセーフティネットとなるシステムがあれば、さらにやる気になる人が増えるのではないかと思っていたんですね。そういう取組がなかったなと思っています。

○大野分科会長 ありがとうございます。

では、文言の修正まではしなくてもよろしいですか。

○最上委員 文言の修正は、特にありません。

○中村大学法人連携専門課長 追って確認できることがありましたら、確認はさせていただきます。

○最上委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 大項目2は、これでよろしいでしょうか。

それでは、大項目3に移りたいと思います。

○中村大学法人連携専門課長 大項目3でございます。資料1の8ページを御覧ください。

下段でございますが、優れた点・特色ある点として、国際金融人材育成特別プログラムや医療人材のリーダー育成のプログラムにつきまして、準備を着実に進めているといった所見をい

ただいてございます。これらにつきましては、今後の成果に期待という所見を併せて頂戴して
ございます。

次ページでございますが、T Aの組織的な活用でありましたり英語力のさらなる伸長を目指
すための授業科目などにつきましては継続的に実施されているところですが、その成果
の検証が期待されるといった所見をいただいているところでございます。

改善・充実を求める点としては、数理・データサイエンスの副専攻コースと文理教養プログ
ラムにつきまして、評価指標の数値には達していない状況というところで、履修継続の難しさ
についての要因分析を行って、対策を講じるといった取組を求めるコメントを頂戴してござい
ます。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。御意見をお願いします。

○杉谷委員 改善・充実を求める点の3番目ですが、報告書自体にアンケート調査の実
施方法等の見直しの内容が明確に書かれていないことに対する御指摘なのかなと受け取ったん
です。要するに、見直しはしたけれども、その内容が報告書に書かれていないことを指摘した
内容であって、そういったことは改善・充実を求める点として挙げることなのかを確認させて
いただきたいということです。

その内容を確認するために事前質問や追加の資料や、また、今回も法人から訂正の資料があ
ったということで、その内容が分かればいいのかと思ったんですけれども、この辺りについ
てはいかがでしょう。

○中村大学法人連携専門課長 おっしゃるように、多くの項目では取組本体に関するコメン
トと報告書の作りに関するコメントと両方記載があって、その場合には、全体の取りまとめの
中では、取組本体に関する所見をベースに、それに付記するような形で、報告書への記載ぶり
について評価委員会からの所見を併せて記載する形にしております。

この件につきましては、実は取組本体に関するコメントがありませんでした。単独で取組本
体に関するコメントを記載するとなると、いずれかと言われれば改善・充実を求める点かとい
うことで、そちらに整理しているところではあります。一定の取組を行ってはいますので、そ
のことに簡単に触れながら、それに対してこういった報告書の記載方法の見直しも期待される
という形で、ほかの事項と似たような取り上げ方をしよう修正したほうが望ましいというこ
とでしたら、そういった素案の修正をできればと思います。

○大野分科会長 杉谷委員の御趣旨は、見直し内容がはっきり書いていないから「書いてくださいね」と言ったことで、別に中身が悪いかどうかははっきり分からない。だから追加の記載等を見ていただいて「なるほどね」ということであれば、これら修正はなしでいいよねということですよ。

○杉谷委員 はい。

○大野分科会長 そのあたり、どうなんですか。ちょっと追加事項が遅く来たので我々が目を通していない部分もあったと思いますが、「それなりにちゃんと見直していることが示されているな」ということであれば、もうこれはなしでいいだろうと思うんですけども。

○中村大学法人連携専門課長 1-2-3の報告書が表示できますか。

たしか小島委員ですよ。

○小島委員 質問はさせていただいていないです。

○中村大学法人連携専門課長 質問をいただいたけれども回答がなかったということですか。

○小島委員 コメントのほうに記載していて、質問のほうには入れていませんでした。

○中村大学法人連携専門課長 本来は、こういう具体的な中身について報告書に記載があったほうがよいだろうということをお願いしているのかなと思いました。

○小島委員 ご指摘いただいた通りです。

○中村大学法人連携専門課長 ここで書かせていただいたのは、取組内容であったりその成果であったりを報告書にしっかり記載しながら、教育の質向上を図っていくことが望まれるということです。今回の報告書の修正に関しては、大学法人側も短期間で対応しているようなところもありまして、大幅な追記はされておられません。今後、どう記載することが望ましいのかは、法人側としても今後、検討していただきたいかなとは思いますが、そこに向けまして、見直し内容など取組の成果がどのようなものなのかを明らかにしながら取り組んでくださいといったコメント案とさせていただいたんですが。

○大野分科会長 分かりました。

ということは、ここに書いてある文言は、質の向上を図る、イコール何か改善してくれというよりは、内容を明らかにしてねということを中心に言いたいということですね。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね。

○大野分科会長 いかがですか。

○杉谷委員 全体の方針として、報告書の記載に関して言及するような内容も含めるということであればいいと思います。ただ、欄も少ないですし、そのあたりを事前の質問とか追加の資

料でカバーするというのでやっていく評価なのかな、と私は理解していたので、報告書の記載ぶりへの指摘はあまりこの指摘には馴染まないのかなと考えていたんですけども。

○大野分科会長 書きぶりをあまりあれこれ言うと、何か箸の上げ下げを言っているみたいだからしたくはないけれども、でも、もうちょっと我々に分かりやすいように示してくださいねといったことは、言っているいいような気もするんですけどもね。

○杉谷委員 それでしたら、方針に従います。

○大野分科会長 別に書きぶりについて指摘してはいけないということではないですものね。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね、昨年度は主に将来どういうところを目指すのかが分かりにくい点について御指摘いただいて、その道筋を明らかにしてほしいといったことに所見として触れていただきました。それを踏まえて、一定の反映がされた形で、今年度の報告書が出ているかなとは思いますが。表現ぶりのところについて、今回はどちらかという、各年度における取組のどういったところに特色があるのか分かりにくいとか、取組の具体例が全然なくて、それがどういうものなのか分かりにくいといった御意見を多くの項目でいただいているかなと思っております。具体例をどこまで記載しろとこちら側が言い過ぎるのも、法人の自主的な取組である進捗状況確認の趣旨と違ってしまうので、具体的な内容や成果を明らかにしながら取組を進めてください、といった所見を、素案のいろいろなところに書かせていただいているのが実際のところでございます。

なので、それを踏まえてまた次年度以降、どの程度の中身で、ペーパーワークが余りにも多くなり過ぎない範囲で、とはいえどういったことをやっているのかよく分かるように、、バランスを取りながら、報告書の作成方法や事業の管理方法を大学法人としても探っていただきつつ、年々良いものにしていってもらえればとは思っているところでございます。

○大野分科会長 そういうことで、いかがでしょうか。このままでもよろしいですか。

○杉谷委員 大丈夫です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

よろしければ、大項目3はここまでにしたいと思います。大項目4をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目4につきまして、資料1の11ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点として、大学院博士前期課程において英語のみで学位取得可能なプログラムが増加している点をよい点として挙げていただきつつ、履修者数や修了者数に偏りがある点について対応を期待するという所見をいただいております。

また、在籍留学生と海外派遣学生につきましては、令和6年度の実績についてはそれぞれ前年度より増加しているということで、その点を優れた点・特色ある点で挙げていただきつつ、併せて在籍留学生につきましては出身地域の多様化の取組、海外派遣学生につきましては中長期の派遣数を増やす取組が期待されるといった所見を頂戴してございます。

また、在籍留学生、海外派遣学生につきましては、いずれも評価指標の達成が容易ではないという御指摘をいただいています、その点については改善・充実を求める点のほうに記載してございます。

それぞれ実情を踏まえて対策を講じることも求めています、在籍留学生については、併せてキャリア支援の充実についても取組が望まれるといったコメントをいただいております。

海外派遣学生数については、先ほど分科会長からもお話がございましたように、国内外の経済状況等を踏まえた予定値を検討して取り組むようにということで、計画そのものの数値の変更ではありませんけれども、大学法人として見込む予定値を経済状況等を踏まえて検討し、取り組んでいくことを望むという所見として取りまとめさせていただきます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

大項目4について、いかがでしょうか。

個別意見をうまくまとめていただいているように思いますが。

○杉谷委員 すみません、日本語の問題ですが、改善・充実を求める点の1つ目で「ものの、」の後にまた「が、」と逆接になっていて、二重に逆接でちょっと変だなと思います。

○中村大学法人連携専門課長 では、文章を切らせていただきます。

○杉谷委員 そうですね。

○大野分科会長 そうですね、一文としてちょっと長いんですね。長いが故に逆接になってしまったり、何かよく分からなくなっている。

では、そこをお願いします。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、大項目5をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目5でございます。資料1の13ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点として、学費への経済的支援あるいは学生の健康診断、キャリア支援、学修環境の整備など、それぞれの取組につきまして改善が進められているといった所見を頂戴

してございます。

一方で、改善・充実を求める点としまして、セクシュアル・マイノリティ教職員研修につきましては、全ての常勤教職員を受講させることも視野に入れて取り組むことを望むといった所見がありました。また、外部のネットワークとの通信速度に関しまして、A Iの活用が高まるという見込みを踏まえて、ネットワーク環境の整備に不断に取り組むことを期待するという所見を頂戴してございます。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○山口委員 これは昨年1度言っていて、今回はどこの場でも言っていないんですけれども、健康診断に関してです。

健康診断は学校保健安全法で、大学の長は学生に対して、毎年度必ず受けさせなければいけないという決まりなんですね。だからこれは本当は100%、学生は全員受けなければいけないものなんです。なので、1割増えたぐらいではなく、ほぼ全員が受けられるような仕組みを何かつくられたほうがいいかなと思います。

今回は実施時期を変更して、意識を高めたんだと思いますけれども、都立大は大きいから学生数も多いので、受けない学生も一定数いるとするならば、2日間とか別日を設けてそこで必ず受けるとか、何かもう少し工夫ができればいいのかなと思います。

○大野分科会長 100%やらないといけないというのは、法令上ということですか。

○山口委員 法令上です。

○大野分科会長 そういうことであれば、この文言を「学生が受診しやすい環境を整えているが、受診率100%を目指していただきたい」ぐらいですかね。

○山口委員 そうですね。ありがとうございます。

○大野分科会長 「法令上、鑑みて」ぐらい入れておきますかね。「法令上、鑑みて受診率100%を目指していただきたい」

○中村大学法人連携専門課長 学生の健康診断につきましては過去にもいろいろと御意見を頂戴しているところではあるので、今の御意見も踏まえて、少し数字を向上させていく取組を期待するというのを、この続きで書かせていただくことでよろしいでしょうか。

○山口委員 はい。

○大野分科会長 法令上定められているのであれば、受診率は100%を目指してほしいという

ことは書かないとまずいのではないのでしょうか。なかなか難しいことは分かるけれども。

○山口委員 もし難しいのであれば、なぜ学生が受けないのか調査をするとか、学生の背景を知った上で整えていく必要があると思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

では、そういう対応をお願いします。

ほかに、いかがでしょうか。

○梶間委員 てにをはの話なので議事録には加えてもらわなくてもいいんですけども、優れた点の4つ目を読んでいくと「学修環境の整備について、ネットワーク環境などハード面の改善を進めることに加え、」となっているので、「進めることに加え」に修正をお願いします。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。

○大野分科会長 ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは大項目5は終了して、大項目6をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目6、入学者選抜関係でございます。

資料1の14ページ下段を御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、多様な媒体で入試広報を積極的に展開していることを挙げていただいています。一方で、現状の取組の効果を検証し、改善の方法を検討していくことについても期待するという所見をいただいております。

また、高大連携につきましては、都立高校との連携協定の改定といった形で関係強化を図っているということで、優れた点としての所見を頂戴しているところでございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

大項目6、いかがでしょうか。

効果検証についても一応入れていただいているんですよね。今後、検討してくださいということが入っています。

いかがですか。

梶間委員、何か気になるところがありますか。

○梶間委員 間違っていたらごめんなさい。今、高校や何かだと「探究の時間」というのがあったりするんですけども、下から2行目の「探求ゼミ」の「探求」が、進捗状況の報告を見るとやはり「探究の時間」の「探究」になっているので……。簡単に言うと、研究の「究」だ

と思います。高校で使う「探究の時間」と一緒だとすると。

○大野分科会長 研究の「究」ですか。「求める」ではなく「究める」ほう。

○梶間委員 そうです。今、原文を見たらやはり研究の「究」でした。

○大野分科会長 「探究ゼミ」でいいんですか。もともとの進捗のほうは。

○中村大学法人連携専門課長 「探究ゼミ」という事業がございます。なので、おっしゃるとおり、この「求」は研究の「究」に修正します。

○大野分科会長 では、それは修正をよろしくお願いします。

ほかには、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、都立大の最後になります。大項目7をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目7、研究推進関係の項目でございます。

資料1の17ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、都や自治体等と連携した研究の支援、あるいは少し下段にまいります。博士後期課程の学生に対する支援、あるいはライフ・ワーク・バランス実現に向けた研究者支援といった各種支援の取組につきまして、順調に実施しているといった趣旨のコメントを頂戴しております。

また、上のほうに戻りますが、テニュアトラック制度につきましては初めて1件利用実績が出たことを優れた点としていただいておりますが、一方で、この制度が人材流出につながることはないように、柔軟に運用していくことを期待するという所見をいただいております。

また、国際共同研究でありましたり科研費、あるいは受託研究費等の外部資金につきましては、前年度に比べて数値が改善しているといったところを優れた点として所見を頂戴しております。

また、下段に参りまして、電子リソースの整備促進についても、文部科学省の事業を活用して推進しているということで所見を頂戴しております。

一方で、改善・充実を求める点につきましては、被引用率トップ10%論文であったりトップ研究者をコアとした研究体制の整備につきまして、さらなる施策の検討が望まれるといった所見を頂戴しております。

また、SNSによる情報発信につきましては、アクセス件数が減少しているため改善を求めるといったコメントを頂戴しております。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ここについて、いかがでしょうか。特段ございませんか。

それでは、都立大学の7項目、全部終わりました。ここで振り返っても結構ですが、何かございましたら。

最上先生、都立大学の7項目はこれで終わるんですが、何か御指摘の点、ございますか。

○最上委員 特にないです。大丈夫です。よくまとまっていると思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

都立大学は一応これで終了しますが、皆さんもよろしいですか。

●東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討(項目別コメント:東京都立産業技術大学院大学)

○大野分科会長 それでは、今度は産技大に移りたいと思います。

事務局からお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目8、産技大の都連携、産学公連携等に関する取組についてでございます。

資料1の20ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、学外と連携した教育研究あるいは公開講座、ホームカミングデー等の修了生と在学生の交流などの取組を取り上げていただいております。

一方で、改善・充実を求める点としまして、A I I Tフォーラムの公開講座の満足度、そのほか全般的に数値による評価が少ないということで、実績に関わる数値を表にするなど見える化して、点検・確認を行うことが望まれるといった所見を頂戴しております。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいですか。特にありませんか。

うまくまとめていただいたと思うので、よろしければ、大項目8についてはこれまでとしたいと思います。

大項目9にまいりましょう。事務局からお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目9、産技大の教育関係の項目でございます。

資料1の22ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、P B L型教育やディプロマ・サプリメントの改善など、教育システムの運用改善の取組が進められているといった所見を頂戴しております。今後

については、質的な面からも取組の充実を図っていくことが望まれるというコメントを頂戴して
ございます。

また、高度情報専門人材を育成するプログラムの提案が文部科学省の事業に採択され、次世
代DXリーダー養成の体制を強化している点について触れていただいております。

また、IRデータへのアクセスをより実施しやすくするといった取組、あるいは新任教員研
修の充実を図る取組といったところを取り上げていただいております。

また、正規課程外のリカレント教育において多様なプログラムが提供されているといったと
ころを評価いただいております。一方で、限られたリソースの中で無理のない運用を進めて
いくことが期待されるといったコメントも頂戴してございます。

改善・充実を求める点につきましては、正規課程外のプログラムのうち履修証明プログラム
については受講者数が少数ということで、増加に向けて改善していくことが望まれるといった
コメントを頂戴してございます。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

1点だけ言葉の確認ですけれども、優れた点の1つ目、1行目の真ん中に「教職協働で取り
組む」と書いてありますけれども、これはどこかに書いてありましたか。

つまり何が言いたいかということ、「教職協働」は教員と職員の協働ですよね。教員同士だっ
たら分かるんだけど、職員とということであればそれは何か特徴的なことがあるはずだ
と思います。産技大の資料に書いてありますか。

○小島委員 私が引用して書いていると思います。

○大野分科会長 引用ですね。であればOKです。すみません、見落としました。

ほかに、いかがでしょうか。

それでは、大項目10に移りたいと思います。

お願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目10、産技大のグローバル教育の項目でございます。

資料1の23ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点として、グローバル人材に求められる能力指標について、新指標の運
用を開始したことを優れた点として所見を頂戴しています。今後さらに指標の達成に向けて重
点的に取り組むべき内容等を整理していくことが期待される、といったコメントも併せて頂戴

してございます。

併せて、海外大学との連携等を行っておりますグローバルPBLについて、順調に成果を挙げているというコメントをいただいております、この点については今後、実効性がある運用を期待するというので所見を頂戴してございます。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

これにつきましては、いかがでしょうか。

グローバルPBLの「8件」というのは、つけ加えてもらったんですね。杉谷先生のコメントでグローバルPBLが順調だと書いてあって、具体的に8件だねということで書いてくれたんですね。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、大項目10はこれで終了といたしまして、大項目11をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目11、産技大の学生への支援関係でございます。

資料1の24ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、エンrollment・マネジメントを通じた学生支援について、アンケートを実施している点についてコメントをいただいております。このアンケートに関しまして、今後の教育改善への反映が期待されるといった所見を頂戴してございます。

また、改善・充実を求める点としまして、このエンrollment・マネジメントを通じて収集した学生の状況を示す客観的な資料やアンケート結果などを明らかにして、今後の検証方法の分析や、継続的にアンケートを実施する上での方針等の整理を行うことが期待されるという所見を頂戴してございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

それでは、大項目11もこれで終了したいと思います。

大項目12にまいりましょう。お願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目12、入学者選抜関係でございます。

資料1の25ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、多様な広報活動を実施し、志願倍率が1.6倍に達するなど成果を上げているという所見を頂戴してございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。特段ございませんか。大丈夫ですか。

それでは、大項目12もこれで終わりにしたいと思います。

産技大の最後になりますが、大項目13をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目13、産技大の研究関係の項目でございます。

資料1の26ページを御覧ください。

各教員の研究成果発表などに関する取組につきまして、評価指標を達成していることを優れた点としてコメントを頂戴してございます。この点につきましては、外部資金の申請と研究成果発表を区分し、質・量の両方の視点から取組を検討・検証することが期待されるというコメントを併せて頂戴してございます。

また、高度専門職業人の養成に関する研究成果の公表につきまして、学内外から100人を超える参加者を集めるなど普及啓発につなげている点を優れた点として挙げていただいておりますが、一方で、研究成果の内容を示すなど、具体的に取組の実績を明らかにしていくことが期待されるといったコメントも併せて頂戴してございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○山口委員 優れた点・特色ある点の最後の「今後は、」の文章についてです。研究成果の内容を示すなど取組の実績を明らかにするという記述に関して、産技大では業績集なども発行されているという説明があったと思うんですよ。研究成果発表会みたいなこともされていると認識しています。これらを踏まえると、具体的にどういうことを報告書に書いたほうがいいのかということですか。それとも、取組の実績を明らかにする機会をつくるのが期待されるということですか。もし別機会を期待するのであれば、具体的にどんなことをすればいいのか、ちょっと分かりづらいなと思いました。

○大野分科会長 恐らくここは私が書いたことだと思うんですね。「高度専門職業人の育成に関する具体的な研究成果の公表を期待したい」と。シンポジウムはやっているんだけど、やはり教員なので、研究成果として論文をまとめるといったことはしてほしいという意味合

いを込めました。もちろんシンポジウムもいいんだけど、そこにとどまってしまうのではちょっともったいないなと思ったので書かせていただいたんですね。

○山口委員 分かりました。

では、中に「論文執筆など」と一言加えるのはいかがでしょうか。「論文執筆など研究成果の内容を示し、具体的に……」といった文章を考えていただければ。

○大野分科会長 そうですね。「研究成果を論文として公表するなど」みたいなことですかね。

○中村大学法人連携専門課長 では、2点目の「今後は、」の部分につきまして、今、お話を頂戴したような形で。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでよろしいですか。

○山口委員 はい、ありがとうございます。

○大野分科会長 ほかには、いかがでしょうか。よろしいですか。

これで産技大の大項目8から13まで終わりますが、通して何か御意見、御質問ございますか。

最上委員、いかがですか。産技大については大体これぐらいの議論だったんですが、産技大関係で最上委員から何かあれば。まとめてすみませんが、お願いします。

最上委員、聞こえますか。

○最上委員 特にないです。これも非常によくまとめてくださっていると思います。ありがとうございます。

○中村大学法人連携専門課長 すみません、少し補足させていただきます。

オンライン参加をされている最上委員から、先ほどのアントレプレナーに関して、ちょっと音声途切れてしまった件で「大野分科会長が主張されていた入門の次の段階をカリキュラム化することに、全く同意しています。さらに起業を後押しするなら、失敗しても救ってくれるようなセーフティネットの仕組みを考えるといいのでは」という御発言をされたかったということでございます。

併せて「特に記述内容を変える必要はないです」というコメントをいただいております。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、一応産技大まで終わったということで、予定としてはここで少し休憩を入れるということでございますので、10分間休憩します。

再開は15時35分としたいと思います。

●東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討(項目別コメント:東京都立産業技術高等専門学校)

○大野分科会長 再開したいと思います。よろしく申し上げます。

ここからは高専に移ります。大項目14からでございます。

事務局からご説明をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目14、高専の、社会との価値共創に関連する取組についてでございます。

資料1の28ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点として、小中学生向けICT・IoT関連講座につきまして、多くの参加者を集め、満足度も高いということで取り上げていただいています。この点については、当初予定の水準にとどまらず充実を図ることが期待されるというコメントも頂戴してございます。

また、スタートアップ教育支援プログラムにつきましては、令和5年度の試行よりも拡充して実施している点を取り上げていただいております。

また、電気電子工学コースにおいて再生可能なエネルギーを活用した実験実習科目を導入するためカリキュラムを改定し、コース名称を変更した点について取り上げていただきまして、このことについて積極的な広報活動を実施しているという所見を頂戴してございます。併せて、このカリキュラムのブラッシュアップに関する方針の整理や改善等に向けた取組が期待されるといったコメントも頂戴してございます。

29ページにかけて続きがございまして、卒業生等と在校生との関係を深めるための交流ブースを文化祭で設けるなど、交流を深めるための取組を実施していること、また、講座開講に卒業生等が協力できるかどうか可否を照会するとともに、卒業生等によるキャリア支援講座を各キャンパスで開講している点についても優れた点として取り上げていただいております。併せて、こうした情報収集を定期的に行っていくことが期待されるというコメントも頂戴してございます。

改善・充実を求める点としまして、荒川キャンパスの施設を活用した社会貢献の取組につきまして、実績や今後の取組予定をより具体的に示しながら取り組むことが望まれるといった所見を頂戴してございます。以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○十河委員 改善・充実を求める点で取り上げていただいている「荒川キャンパスの施設を活用した社会貢献の取組について……実績や今後の取組予定をより具体的に示しながら」というのは私がコメントしたんですが、ここまでのいろいろな議論も聞いている中で、改善・充実を求める点をどう残していくかという点で言うと、ほかの皆さんの指摘よりもこれを残すほどのものかなと感じなくもないんですけども。

令和7年度の予定が余りにも淡々と書かれている感じもあったので、この辺りをもう少し見えるようにされたらどうかという、やや資料の表記上の問題的なコメントでもありますので、これを残すほどでもないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○大野分科会長 そうですね……。

例えば、見える化が進んだ、改善されているということは優れた点に入れておいて、要望としてみうちょっと実績と計画を明示してもらいたいぐらいの記述にするのはいかがでしょうか。

○十河委員 それぐらいのほうが座りがいい気もします。改善を求める点にも何かあったほうがいいという視点もあろうかとは思いますが、

○大野分科会長 でも、無理に改善を求めなくてもいいと思います。今のお話を伺っていると、そこまでのレベルではないような気もしますから。

○十河委員 もし残すなら、むしろ3-1のところではほかの皆さんが指摘されている点を書いてもいいのではないかという気もいたします。

○大野分科会長 であれば、これを削除してしまってもということですよ。

○十河委員 それでも結構かと。

○大野分科会長 優れた点にまではなっていないということであれば。

○十河委員 それでもよろしいかと思えます。

○大野分科会長 では、削除しましょうか。

○中村大学法人連携専門課長 こういった御意見もいただいていることは学校側とも共有させていただきながら、所見としては削除ということによろしければ、そのようにいたします。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

削除という点では、1つ戻って申し訳ないんですけども、大項目13で研究成果の公表というところについて、論文うんぬんと言ってしまったんですけども、そこまで求めるのはちょっと言い過ぎかなと思ったので、「今後は、」以下を削除させていただければと思いますが、皆さんお認めいただけますか。すみません。

(異議なし)

○大野分科会長 ありがとうございます。

では、削除で。

○山口委員 大項目14の荒川キャンパスの取組で、「地元企業と連携した保護者向け講演会」というところは、何かすごく新しかったり、地元企業を集めて何かやっているということかと思えます。これが、高専としてすごく意味あることであれば、報告書において、やはり実績をちゃんと蓄積するような書き方にしていってほしいかなと思えますが、どうでしょうか。

これはいつもやっていることなんですかね。新しく取り組んでいることであれば、実績を残しておいてほしいかなと思えます。

今までも、地元の企業さんに研修会等の開催を周知しても、来る人が少なかったなど、いろいろ苦慮されている部分があったと思えます。だけれども、今回の保護者向けの講演会に関しては60人以上が参加したという実績があります。保護者向けのところ、大学が企業と一体となってやっているというのはすごくいい取組かなと思って、実績は残してほしいかなと思うところです。

○大野分科会長 なるほど。

○梶間委員 そうすると、優れた点のほうに入れるということですか。

○山口委員 そうなりますね。

○大野分科会長 そういう御提案ですが、いかがでしょうか。優れた点のほうに入れるということ。

御異論がなければ、そういう形にさせていただきます。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、大項目14は終了させていただいて、大項目15にいきましょう。

○中村大学法人連携専門課長 大項目15、高専の教育関係の項目でございます。

資料1の31ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、令和3年に新設しましたA Iスマート工学コースと情報システム工学コースの希望者数でありましたり、未来工学教育プログラムの修了者数の評価指標に対して、順調な成果を上げているといった点を取り上げていただいております。

また、企業から講師を招いてSDGsやスタートアップ、国際化について学ぶ講座を開講している点、あるいは高専の教育に興味を持つ現役エンジニアに副業先生として講義を実施していただいている点を取り上げていただいております。

また、教育の質保証関係でございますが、各コースの教員をメンバーとする教育点検改善室によるボトムアップの教育改善に併せまして、J A B E E の受審でありましたり、産業界、教育、行政機関の有識者で構成される運営協力者会議によるチェックを受けるといった取組をしていることを優れた点として取り上げていただいております。

改善・充実を求める点としましては、荒川キャンパスにおけるリカレント講座につきまして、講座数が4講座にとどまっているところについて、さらなる改善の取組が望まれるというコメントを頂戴しております。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○杉谷委員 改善・充実を求める点について、恐らく私のところから取っていただいたかと思うんですけども、当日お話を伺っても非常に御苦労されている感じがうかがえて、いろいろ要因分析して対応もされているけれども、なかなか芳しくないという状況でした。こちらの高専のみならず、どこの機関も、本当に教育、研究、社会貢献、いろいろな点に御努力されていて、ちょっとこれはコストをかけ過ぎではないかと思われるようなところもあると思って、「持続可能な形で」という言葉を入れておりました。

あまり無理されることなくやっていたらという意味合いを込めて「持続可能な形で」と入れたかと思うんですけども、そのニュアンスがもうちょっと伝わるようにしていただくとありがたいと思います。これだと何か無理無理「さらに頑張れ」みたいに追い込んでいるような気もしたので。

○大野分科会長 そうですね、確かに。

○中村大学法人連携専門課長 かしこまりました。「持続可能な形で改善に取り組むことが望まれる」といった趣旨での御意見ということでよろしいでしょうか。

○杉谷委員 はい。

○大野分科会長 では、「持続可能な形で」と入れながら事務局でご検討いただくということで、よろしいですか。

○杉谷委員 よろしく申し上げます。

○大野分科会長 ほかには、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、大項目15はここまでにしたいと思います。

大項目16をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目16は、高専のグローバル教育でございます。

こちらは1点、優れた点・特色ある点として、海外体験プログラムについて、70人の参加者を確保して着実に実施しているという所見をいただいております。

○大野分科会長 ありがとうございます。

皆さんの御意見もそのような感じですね。資料のとおり集約しましたが、よろしいですか。では、大項目17をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目17、高専の学生への支援関係でございます。

資料1の33ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、学生アンケートを活用して、学生一人一人に合わせた支援を継続的に実施している点を取り上げていただいております。この件につきましては、アンケートだけでは明らかにしづらい課題もあろうということで、そういった観点から取組の充実が期待されるというコメントも併せて頂戴しております。

次に、学生の課外活動について積極的に支援を行っておりまして、複数のコンテストで学生が受賞するなどの成果を上げている点を優れた点として取り上げていただいております。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○十河委員 表現の問題ですけども、「特筆に値する」というかなり褒めているようなニュアンスもありますが、皆さんのコメントを見てもそこまでの表現が入っているわけでもない。学外活動、課外活動においてすばらしい賞を受賞した内容に関する評価なわけですけども、ここまで褒めますかという、ただそれだけです。

○杉谷委員 私のところにこの言葉を使ってあるので、合意があれば、ここまででなくても結構です。

○十河委員 あ、ごめんなさい。読み落としておりました。それであれば残すことで差支えございません。コメントにないものだと思って、ここまで書くかなと思ったんですけども、コメントがおありであれば問題ございません。

○大野分科会長 最優秀賞を取りましたからね、これは褒めてあげてもいいような気もしますが、よろしいですか。

○十河委員 分かりました。結構です。

○大野分科会長 ほかに、いかがでしょうか。

よろしければ、大項目17はこれぐらいにさせていただきます。

大項目18をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目18、高専の入学選抜に関する取組でございます。

優れた点・特色ある点としまして、公式ホームページのアクセス数やSNSのフォロワー数が着実に伸びており、学生広報チームの協力を得て作成したコンテンツも発信している点を取り上げていただいております。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

個別の意見をまとめるとこんな感じかなと思いますが、よろしいですか。

では、高専最後になりますが、大項目19をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目19、高専の研究関係の取組でございます。

資料1の35ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、特別研究期間制度について、評価指標と同数の実績を達成した点を取り上げていただいております。一方で、この点については令和7年度の申請者が2名の予定ということで、継続的に指標を達成できるような環境づくりが期待されるとのコメントもいただいております。

次に、医工連携共同研究プロジェクトにつきまして、台東区の台東病院と共同でプロジェクトを実施するなど、学外との共同研究が多く実施されているという所見を頂戴してございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

2つ目の「・」の学外との共同研究については、台東病院だけでなく、これは委員から記載していただいたものですが、それ以外に都立大との共同研究も事例として加えていただいたんですね。

いかがですか。よろしいですか。

よろしければこれで高専が終わるんですが、最上委員、高専についていかがでしょうか。大項目14から19まで議論したんですが。

○最上委員 高専は、この間お話を聞いても頑張っていますので、非常にいい評価だと思います。十分評価できていると思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

●東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討(項目別コメント:法人運営)

○大野分科会長 それでは、一応高専も終了とさせていただきます、法人のほうにいきたいと思います。

大項目20、よろしくをお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目20、法人の組織運営関係の取組に関する所見でございます。

資料1の38ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、組織横断的な検討体制ということで、部長連絡会を毎月開催し、2大学1高専の連携を一層促進させている点を取り上げていただいております。併せてこの点に関連しまして、アジェンダ設定や会議運営の工夫により有意性を高めながら取り組むこと、あるいは若手の意見を集約する場を設けるなど、議論を活性化させるための取組も期待されるというコメントを頂戴しております。

次に、経営審議会につきまして、構成員以外の出席者の範囲を拡大した点を優れた点として取り上げていただいております。併せてこれら会議体の取組に関しまして、議論の成果を一層分かりやすく示すといった取組の充実が期待されるという御意見も頂戴しております。

次に、都内子育て世帯向けの授業料支援制度を導入した取組を優れた点として取り上げていただいております。この点に関しては、周知方法の改善等の取組が期待されるといったコメントも併せて頂戴しております。

また、都連携関係の取組につきまして、評価指標を上回る実績を継続し、外部資金収入も拡大している点を優れた点として取り上げていただいております。この点については、主な事業の内容を明らかにしながら、実績を踏まえて一層の連携強化を目指して取り組むことを期待するとの所見を頂戴しております。

また、2大学1高専の連携関係でございますが、実験機器の共用開始に向けた調整でありましたり、共同研究事業について順調な成果を上げているという所見を頂戴しております。この点については、共同研究の申請実績など、実績をより具体的に示して取組を進めることが期待されるというコメントを併せて頂戴しております。

また、2大学1高専連携の海外体験プログラムについては、毎年度30名程度の参加者を集め

て事業を実施するという評価指標を達成していることを取り上げていただいておりますが、この点については、参加者増加に向けた取組も期待されるとのコメントを併せて頂戴してまいります。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

多岐にわたっているので目があちこち行ってしまうんですけども、いかがですか。大体うまくまとめていただいたような気もしますけれども。

梶間委員も幾つかコメントを書いていますけれども、やはり数値目標がなく定性的指標だから、どう表現するかなかなか難しいんですけども、でも、委員の方々の意見はうまく集約されていると思いますけれども、どうですか。

○梶間委員 分科会長からお話があったように「数値目標がないので定性的な評価になります」と書いている箇所があるんですけども、でも、最終的にはきれいにまとめていただいた感じがあります。

今のところ特に修正を希望するところはありません。

○大野分科会長 ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。

○杉谷委員 山口委員が評価指標のことをいろいろ書かれていますけれども、これは最初のほうにお話があったように、評価指標等はそもそもいじれないというか、今回は明確には指摘できないという意図でこうなったという理解でよろしいですか。

○山口委員 私が「評価項目の検討が必要と思われます」と書いたのは、「ナントカの実施に取り組んでいる」ということが主に書かれています、その実施結果はどうだったのかが何も示されていないところとか、どういう内容で実施結果を測ろうとしているのかというところがわからない部分があったからです。例えば、法人運営のところでは、「職員のマインド形成など機運醸成を目指し」と記載がありますが、職員のどんなマインドを形成したいのか等が不明瞭だと思います。マインドのない職員がいっぱいいるんですかと思うと、どういう組織なんですかと言いたくなるわけですよ。

そういう具体的なところも示されていないけれど、こういう組織横断的な連絡部会は開くようにしています。そこで何をしたいのか。多分、組織力の強化とかそういうことをねらっているんだろうと思うので、具体的に何を成果としたいのかをちょっと文言に入れてもらったら

いいかなと思う次第です。

例えば1つ目の「・」の4行目を「検討をより一層促進させる取組の実施と、その成果の公表を期待する」とか、何かそういうことをちょっと入れてほしいかなと。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

2つの項目にわたってしまって、もう一回書こうかどうしようか若干迷ったところですが、2つ目の「・」の「今後、経営審議会等の会議について、議論の成果を一層分かりやすく示す取組の充実が期待される」という、それぞれに書くとすると、それぞれにこういったことを書き込んでいくようなイメージでございましょうか。

○山口委員 そうですね、どこかに成果の公表等について、書かれていたらいいかなと思います。

○大野分科会長 あちこちの項目でそういうことがあるのであれば、くどいかもしれないけれども、書いておいてもいいのではないですか。経営審議会もそうかもしれないし、部長級の会議体等もそうだろうし。

○山口委員 ただ「会議は何回開催した」ということでは、やはりよくないと思うんですね。「会議の成果として、今年度はこういうところが達成できた」といったことが少し示されるといいかなと思う次第です。

○大野分科会長 その辺りは入れましょう。

○中村大学法人連携専門課長 はい。

○大野分科会長 ほかには、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて大項目21をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目21、業務改善、施設の整備等に関する取組でございます。

資料1の42ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、組織体制の整備について、定例業務の集約化に向けて具体的な検討に着手している点を挙げていただいています。この点については、スケジュールを含めた進め方をしっかり示しながら取り組むことが期待されるとのコメントも併せて頂戴してございます。

次に、優秀な職員の確保・育成に向けて様々な取組を行っている点を取り上げていただいています。これに関連して、ミドルシニア層に向けたキャリア形成支援の充実も期待されるとのコメントをいただいております。また、これまでの施策の成果を踏まえ、実効性を高めながら取組を推進することが期待されるとのコメントも併せていただいております。

次に、教員人事制度について、サバティカル制度であったりテニユアトラック制度の運用改善を行っている点を取り上げていただいています。この点につきましては、今後、取組の成果を測る基準や実績、課題などを明らかにしながら、制度運用の一層の見直しを進めることが期待されるとのコメントをいただいております。

続いて、文書管理システムの導入あるいは会計事務の電子化に向けた取組につきまして、着実に推進されているという所見をいただいております。この点については、こうした取組を契機に得られる気づきを生かし、不断の改善を進めることが期待されるとのコメントも頂戴してございます。

次に、働き方改革推進計画に基づき、長期勤続休暇制度の導入や生成AIの試験導入など様々な取組が行われている点を取り上げていただいております。今後、働き方改革の効果検証を行うに当たり、基準を定めて経年変化を確認するなどの取組が期待されるとのコメントも併せていただいております。

続いて、ダイバーシティを推進する施策を展開している点、あるいは外国人教員比率について評価指標を達成している点などについて取り上げていただいております。

また、施設・設備の改修・整備につきましては、火災復旧工事が完了したこと、また、老朽化設備の更新工事が着実に進められている点を取り上げていただいております。このことに関しましては、年度ごとの取組予定等をより具体的に示しながら、取組を進めることが期待されるとのコメントも併せて頂戴してございます。

改善・充実を求める点でございますが、都立大の女性教員につきましては、教員数・比率ともに前年度比で微減となっております。この点について、課題の分析と対策を明確にして取り組むことが望まれるといった所見をいただいております。併せて女性の活躍推進を行っていく上では、男性の働きやすさにも着目して施策を検討するなどさらなる取組の充実が期待されるとのコメントも併せて頂戴してございます。

説明は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○小島委員 ミドルシニア層のキャリア形成支援のところは私がコメントさせていただいたのですが、ご質問させていただいたときに「法人には、若手の方が多くて、ミドルシニア層が多くはない」というお話もあったかと思えます。民間企業ですと、ミドルシニア層が多い会社もあるのですが、法人側は「そんなに多くはないんですね」みたいなお話だったので、この

「今後、」から「期待される。」の一文は今の時点では削除していただいて「加えて、」になげてもいいのかなと思っていますが、いかがでしょうか。

○大野分科会長 確かに、あまりいないとおっしゃっていましたね。覚えています。

いかがでしょうか。

では、「今後、」から「期待される。」までは削除しますか。

○梶間委員 本文の個別の意見も変わってしまうということですか。

○大野分科会長 個別の意見は個別の意見として残しておいて。

○小島委員 そうですね。

○大野分科会長 所見としては、今、議論しているところだけにしか出てこないのです。

○梶間委員 分かりました。

○大野分科会長 ほかには、よろしいですか。

○杉谷委員 女性教員のところですが、1名減少している状況なんですけれども、やはり指摘したほうがいいんですかね。

併せて、もとのデータを見ると、評価指標4-1-9-②で、令和5年度は教員数が少なく、これは何でしょうかね、サバティカル等で一時的に少なかったんですかね。

○中村大学法人連携専門課長 それはカウントしているはずですが。

○杉谷委員 そうなんです。何か6人ぐらい違って、何でこんなに違うのかなと思ったんですけれども。1名女性が減っていて、ほかに移られたか辞められたのかなと思ったんですが。それでパーセンテージ等に出ている状況なので、ちょっと不可抗力かなと思って、難しいかなと思ったんですけれども。

ただ、後半の指摘はもっともだと思うので、学長裁量枠の見直しとか男性の働きやすさ等も重要だという指摘はもっともだと思うので、この1名減ったことをわざわざ書くかどうかだけ、少し気になりました。

それと、単純にここの教員数が違っているのが不思議だなと思っています。

○大野分科会長 なるほど。

それであれば、微減になったというところだけは除いて、「学長裁量枠の見直し」云々は残しておいてもいいですよ。

○杉谷委員 はい。それでいかがかなと、ちょっと思いました。

○大野分科会長 では、「都立大の……」からちょっと飛ばして、「都立大の女性教員を対象とした採用枠」うんぬんという感じでつなげるということですかね。

○杉谷委員 そうですね。ですので、今後ますます取り組むことが望まれるということと、男性の働きやすさということに記載するということです。

○大野分科会長 女性教員が少ないということは、まだまだ残っている課題ですから。

では、そんなふうにいたしましょうか。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、大項目21はこれぐらいにさせていただいて、大項目22をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目22、ガバナンス強化関連の取組についてでございます。

資料1の44ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、危機管理の強化に向け安否確認システムの導入拡大の取組を実施した点など、また、教職員コンプライアンス行動指針の整備に向けて総合的な体制構築が検討されているといったところを取り上げていただいております。これらにつきまして、現状の課題や今後の取組予定などをより具体的に示しながら推進するとともに、ハラスメントや不正などに対する内部統制の有効性を幅広く検証する必要性についても検討を行うことが期待されるとのコメントを頂戴しております。

続いて情報関係の取組ですが、ITガバナンス・マネジメントの強化であったり情報セキュリティ対策強化を行っている点を取り上げていただいております。また、DXや業務改善の推進等に係る研修について、施策の効果等を踏まえて定期的に必要な研修を検討して取り組むことを期待するとのコメントも併せていただいております。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

これにつきましては、いかがでしょうか。

○十河委員 「こう書けばいい」という提案ではなく、やや感想めいたことで恐縮ですがけれども、1つ目の「・」について、危機管理の強化でありますとかコンプライアンスでありますとか、こういうところは割とベーシックな、でも、毎年いろいろとニーズが動いていて難しくなっている面もあると思います。なので、それについて、どの程度の危機感で、どの程度の問題意識を持ってやっていて、それができたか、できていないかみたいな評価がどの程度自律的にされているのか、そういう部分が今回の中では十分見えてきていないなというのが私の感想です。それでコメントも◎ではなく◇の改善・充実を求める点のほうで、その辺りについて書きました。改善・充実を求めるところまで、この1年の取組なりこれからの取組が足りていないと断じることもできていないので、改善・充実を求める点に書かないことも理解はしているつ

もりなので、直してほしいとまではいかないのですが、優れた点・特色ある点の中に入れ込むほどポジティブには私は全くコメントしていません。そこをどうしたものかなと思いながら意見を申し上げます。

○中村大学法人連携専門課長 どちらかという改善・充実の趣旨が強いということでしたら、該当箇所を切り出して、改善・充実のほうに記載することも、所見の趣旨を伝えるという意味ではあってもよろしいのかなとは思っています。

○大野分科会長 さあ、どうでしょうか。

○中村大学法人連携専門課長 通常、優れた点・特色ある点の中で触れる際には「期待する」という表現を用いているんですけども、そういうニュアンスというよりは、上に置きながらも「求める」という言葉を用いて表現するか、あるいは下に移して「引き続き期待」というぐらい、「改善を求める」と書くほどのものではないけれども、方向性としては改善してほしいという気持ちをはっきり伝えるという表現もあるかなと思います。

○十河委員 私自身がどちら側で考えるべきかと思いながら、十分ヒアリングし切れていない部分だと思います。その中で、上に置くのか下に置くのかどちらかを選択するというところで言うと、下に置くほどの意見ではので、やはりこの原案のままでいいかなとは思っています。

ここは今後も含めてもう少し聞いていきたいこととしておきますが、今は原案のままで結構です。

○大野分科会長 優れた点のほうに置いておくとしても、最後の「期待される」の前に「強く」とか、ちょっとレベルが違うよと。そういった言葉で示してみたらどうですか。それをお伝えいただくということで。

○十河委員 でも、ここまで書いていただいていますので、不十分だとまでは私自身が評価できていないので、このままで結構です。

○大野分科会長 では、このままでよろしいですか。

○十河委員 はい。

○大野分科会長 皆さんもそれでよろしければ。

ほかには、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、大項目23に参りましょう。

○中村大学法人連携専門課長 大項目23、財務内容の改善に関する取組についてでございます。資料1の46ページを御覧ください。

寄附金の募集に当たって、新たなメニューを設定した点、また手続きの効率化を図った点などを優れた点として取り上げていただいております。

一方で、改善・充実を求める点として、現状の獲得額が高くないところがあり、さらなる工夫を検討するとともに、具体的な寄附金収入の目安を持って取組を充実させることが望まれるという所見をいただいております。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。御意見、御質問をお願いします。

梶間委員が御指摘された「高専を除き寄附金額の実績は高くない」というのは、総額ですか、1件当たりの金額ですか。

○梶間委員 両方です。

○大野分科会長 てっきり都立大のほうが多いかと思ったら、高専のほうが多いのですか。

○梶間委員 実績を見ると、高専の方が高かったと思います。都立大は、NHKで牧野富太郎博士に関する連続テレビ小説をやっている年は、寄附金額が増えましたけれども、その次の年になると減っています。

○大野分科会長 がたっと減りましたよね。高専よりも低い状況です。

○中村大学法人連携専門課長 只今、画面に表示してございますが、令和6年度の実績としましては、金額としては高専のほうが多くなってございます。

○大野分科会長 そうなんです、すみません。

○梶間委員 前回、法人から決算書の概括的な説明があつて、損益計算書について、7割が運営費交付金収入だということでしたけれども、ただ、自己資金の確保という点で寄附金に力を入れているのは、とても評価できるんですね。ただ、金額だとか件数はまだまだ検討の余地があるかなという感じがしました。

先ほど、ほかの委員の方からも同じような話があつたかと思いますがけれども、計画の作り方というのは、一般企業だとローリングプランとって毎年環境に合わせて変えてしまうパターンと、もう一つ、ずっと固定のまま行くパターンがあつたりします。どちらがいいかという、個人的にはハイブリッド型がいいかと思うんですね。例えば安全に関する設備計画などは事情に関係なくやっていかないといけないと思うし、ニーズが必要だったりするのはマーケットの意見を聞いて変えていくのが正しいと思うんです。

寄附の場合にはどちらかというのは、私が決めることではないんですけれども、やはり自己

資金を確保という姿勢はとても評価できますが、余りにも目標値が少なかったりするので、法人が自主的に目標値を変えるなら、それはそれで前向きで、すばらしいなと思います。

前回、法人か大学の方に質問させてもらったときに、企業からもらった場合には指定寄附金となるということで、企業は全額経費になったりしますので、そういう指定寄附金に力を入れるのもいいかな、法人向けの寄附のメニューがあってもいいかなと思ったりしました。法人の姿勢はとても評価できるんだけど、目標値としてはまだちょっと低めかなという感じがしているところです。

ただ、今回のコメントのまとめ方としては、個別の意見をまとめると、確かにこういう感じになるのかなと思います。

○大野分科会長 目標値に関しては、何度か出てきていますよね。十河委員も指摘されていて、まとめていただいた資料では「目安」という言葉になっているんだけど、何か意図がありましたでしょうか。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね、一般用語としては「目標」とか「計画」という言葉がよいかと思います。制度上「中期目標」であったり「中期計画」であったりという言葉があるので、そことの混同を避けるために違う言葉を使ってみております。

併せて具体の金額について「これが目標だ」ということで定める方法もありますが、それと併せて、どういうところを目指しているのかということでの目安を置きながら取り組んでいく方法もあろうかなと思います。法人の報告書などを見ますと、この項目に関しては将来の目安というか予定値が示されていない状態です。そういったところも含めて取組の余地があるのではないかと、頂戴した御意見をこのような形で取りまとめさせていただいてございます。

○大野分科会長 そういう文言上の使い分けもあるようなので、今回は、よろしければ「目安」という言葉でいかがでしょうか。（委員から承認の反応）ご承認いただきありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、大項目23は終わらせていただきまして、大項目24をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目24、評価の充実及び情報公開関係の取組についてでございます。

資料1の48ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点として、中期計画の進捗管理及び法人の経営情報の公開について、取

組を着実に実施しているといった所見を頂戴しております。

また、戦略的な広報につきましては、積極的な広報活動を実施しているとして取り上げていただいておりますが、併せて、SNSの活用状況やアクセス件数の推移を明らかにしながら検証することで、さらなる効果を生むことが期待されるというコメントも頂戴しております。

また、改善・充実を求める点といたしまして、中期計画の進捗管理について、実績や取組予定をより具体的に示しながら、自己管理ツールとして一層活用することを求める所見を頂戴しております。加えまして、中期計画進捗状況の報告に当たって年度ごとの特色を明確にするなど、より分かりやすい報告書の作成に向けて工夫することを求めるという所見をいただいております。

概要は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

文言的に揃えるというだけのことですけれども、優れた点の2つ目の文章の2行目が「実施した」となっているけれども、ほかは「～～している」という感じだから、合わせませんか。

○中村大学法人連携専門課長 承知しました。

○大野分科会長 梶間委員からは、もう少し広報について、やっていることは分かるけれども、いろいろな検証をしたり頑張ってもらいたいということが書いてあるんですけれども、これは優れた点の中の期待する項目ということでよろしいですかね。3番目の「・」に書いてあるんですけれども。

○梶間委員 法人に実際に来てみると、3校ともとても優れた学校です。法人の事業計画や何かでもとても不思議なのは、一般の大学と違って、生徒募集だとか学生募集だとかをやっていては、そんなに熱くないような気がするんですね。

優良校だから、どうしても学生が自然に来てしまうのかも分かりませんが。知れば知るほどいい学校だけれども、みんなが知ってしまったらたくさん来て困ってしまうのではないかなという感じもあつたりします。まとめ方としては、今回のまとめ方でいいかと思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、大項目24はこれで終了させていただきます。

最後、大項目25をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 大項目25、その他重要事項に関連する取組についてでございます。

す。

資料1の49ページを御覧ください。

優れた点・特色ある点としまして、TMUサステナブル研究推進機構における持続可能な社会の実現に向けた調査研究について、指標の達成に向けて順調に成果を上げている点、また、環境報告書につきまして、情報開示を推進している点を取り上げていただいております。

また、50ページにまいりまして、CO₂排出量削減率につきましても順調な成果を上げている点を取り上げていただいております。この点に関しましては、学生を巻き込んだCO₂排出量削減に向けた活動についても実績や取組予定を示しながら推進することが期待されるという所見を頂戴してございます。

以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

個別意見をまとめていただいたという感じで特に問題なさそうですが、よろしいですか。

最上委員、たびたびすみません。

○最上委員 最後のTMUサステナブル研究推進機構のところですけども、基準値を上回って達成していることについてコメントをしたのですが、これは年度だけではなく、次に達成するような、次への布石みたいなこともやっていく必要があると思うので、そこのところちょっと足りないのかなと思っています。そこはちょっと文章にはならないかもしれませんが。

取組そのものは一応うまくまとまっていますが、単発で終わらないように期待したいということです。

○大野分科会長 そうすると、例えば今のCO₂の話でいくと、「継続的な推進」だとか「持続的な」とか、そのような言葉を入れますか。

○最上委員 そうですね、正にそうです。そうしていただければ。

○大野分科会長 では、2行目を「持続的に推進する」でよろしいでしょうか。

○中村大学法人連携専門課長 学生を巻き込んだ活動も取り入れながら、持続的に取り組むことが期待されるというような趣旨で。

○大野分科会長 そんな感じで、いかがでしょうか。

○最上委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 ほかに、いかがですか。よろしいですか。

であれば、一応25項目全て審議させていただいたということにしたいと思います。

修正、削除等を含めて若干出てまいりましたが、これにつきましては事務局と分科会長の私に一任していただければと思います。毎年そのような形で進めさせていただいておりますが、よろしいですか。

(異議なし)

○大野分科会長 ありがとうございます。

修正箇所について、ざっと見ていきたいと思えます。

てにをは的な修正も含めてですが、まず最初に出てきたのが11ページ、改善・充実を求める点の2行目、「ないが、……とともに、」は文章としてちょっとおかしいので、「容易ではない。」と切るということで、杉谷委員から御指摘いただいた形に直しましょう。

13ページ、受診率の問題で、本来は100%にすべきなので、それを目指してほしいということ。

それから優れた点・特色ある点の4つ目の真ん中辺、「進めることに加え」。「に」が抜けてしまったので、それを入れましょうということ。

14ページは、優れた点・特色ある点の3行目、「探求ゼミ」の「求」を「求める」ではなく「究める」にするという修正。

それから26ページ、優れた点・特色ある点の2つ目の2行目「今後は、」以下を削除する。

29ページは、改善・充実を求める点として荒川キャンパスの社会貢献の話がありましたけれども、これは優れた点・特色ある点のほうに移動して、「取り組むことが望まれる」ということで頑張ってくださいということにしましょう。

続いて31ページ、改善・充実を求める点ですけれども、非常に頑張っているいろいろと手は打っているけれどもなかなか成果が出てこないということなので、持続可能な形で取り組んでほしい、そういう意味合いを入れてくださいということ。

38ページに飛びます。優れた点・特色ある点の1つ目の4行目「より一層促進させる取組の実施とその成果の公表」と、「その成果の公表」をつけ加えるということだったと思えます。

そして42ページ、優れた点・特色ある点の2つ目の「・」で「今後、ミドルシニア層……期待される」これについては削除しようということでした。

そのページの一番下、改善・充実を求める点では、数字の微減については削除して、「都立大の」から始まって、その次から「。」まで削除して、「女性教員を対象とした採用枠を創設うんぬんはそのまま残しておく。

そして48ページ、優れた点・特色ある点の2つ目の「・」は、「実施した」を「実施してい

る」と表現を整える。

最後、50ページのCO₂削減については、推進することが期待されるんですが、「持続的に」推進するというので、サステナブルであるということを入れるという修正があったかと思えます。

先ほど申し上げたように、事務局と分科会長である私で最終的に確認する作業は、こちらにお任せいただきたいということで、よろしく御了承ください。直したものは、もちろん最終的には皆様に御提示します。

ありがとうございました。

●東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見(素案)の検討(総括コメント)

○大野分科会長 それでは、個別の所見の素案の審議は終了させていただきまして、総括コメントについての審議に移りたいと思います。

事務局からお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 資料2を御覧ください。

こちらは、ただいま御審議いただきました個別の項目に対する所見につきまして、全体を総括する形で取りまとめた資料として作成してございます。

「主な所見」として枠囲みの中に示しておりますのは各学校の主立った取組に対する所見で、ヒアリングの際に、優れた点に関する重点ヒアリング事項として取り上げていただきました事項を記載してございます。都立大学に関してはアントレプレナーシップ教育関連の取組、産技大につきましては文部科学省の助成事業に採択された事業の取組、また、高専につきましては課外活動に対する支援と学生の受賞等の実績、また、法人運営については寄附金募集に関して新メニューを設定するなど改善を進めているという取組について取り上げてございます。

これらの取組を受けまして、全体の状況について2ページに「総括」として記載させていただいております。

多岐にわたる取組を実施しており、中には一部、評価指標の達成は難しいという御所見をいただいているものもありますが、多くのものにつきましては指標達成に向けて着実に取組を進めていて、順調な中期計画の進捗状況にあるということ全体を総括的なコメント案とさせていただきます。

各学校の取組状況ですけれども、先ほど枠囲みの中で紹介させていただいたアントレプレナーシップ教育、あるいは次世代のDXリーダーといったところも主立った取組として取り上げ

いただいておりますので、イノベーションの創出に向けた新たな取組なども実施しているとしてございます。

併せて教育の国際化に関しても、いろいろ課題がありつつですけれども、大学院における英語学位プログラムの取組であったり、産技大においてはグローバル人材の新たな能力指標の設定であったりを実施してございますので、そういった新事業も展開しているということで記載してございます。

今後に向けては、いろいろと不透明であったり急速に変化している部分がありつつですけれども、そうした中であって「法人自らの経営管理として、計画の達成に向けた具体的ステップを明確にしつつ、社会経済の動向や実績の推移を的確に捉えて、」目指すところ、ここでは「目標」という言葉をあえて一般用語として使わせていただきましたが、「目標の見直しにも機動的に取り組んでいくことが望まれる」と記載してございます。

詳細の所見について外部の方に御覧いただくことはなかなか難しいところもございまして、主立ったポイントを取り上げつつ全体の状況を総括してお伝えするといった役割で、この部分を作成してございます。

これに続く形で個別の事項に関する所見を記載して、最終的には公表させていただきたいと考えてございます。

御説明は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、御意見をいただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

○杉谷委員 最後のところですが、先程も御説明があったように「目標の見直し」ということで、ちょっと一般化した書き方という伝え方がうまく伝わるというんですけども、報告書だと「中期目標」という言葉を使っているので、中期目標自体の見直しではなく、何となく目標とわかる形にした方が良いのではないのでしょうか。

○中村大学法人連携専門課長 おっしゃるように、全体の統一性を持たせるという意味で申し上げますと、ここで言っている「目標」は今後の取組の方向性であったり、どのくらいの水準を目指すのかという法人としての見込みのことを示すと思えます。目安の値を大学法人では「予定値」と呼ぼうと言っておるんですが、予定値という言葉を経営コメントで使った場合、一般の方に御覧いただくと「これは何なんだろう」といった感じになるかなということもあって、少し言葉を変えた次第です。この所見の個別の中で使用している言葉としては、「予定値」であったり「取組の到達点」といいましょか、そのように少し表現を変えることもあり得る

かなとは思ってございます。

○杉谷委員 昨年度もこの呼び方をどうするか、随分申し上げたかと思えますけれども、評価指標というの何かちょっとなじまない気がして、でも、目標値という言葉でもないと思えます。予定値ということで相互理解されているということなんですよ。

○中村大学法人連携専門課長 はい。

そういった意味では「予定値」と表現するのが、この一連の取組の中では一貫してくるかなとは思っています。

○杉谷委員 とはいえ、ほかにいい言葉も思いつかないんですけれども、「目標」というと中期目標の見直しかなという気もしたので。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね、言っていることの混乱を避けるという意味では、おっしゃるように、「目標」という言葉は使わないという整理にするのであれば、ここでも使わずに別の言葉を探るべきかというところで。

○十河委員 今の点、これは一般の人たちにも理解を得やすいようにということも意図しての言葉選びだと理解したんですけれども、そういう意味では、「予定値」というのは一般の人たちにはやや分かりづらい。一方で、「目標」と言うやや広過ぎるというか、ふわっとするイメージもあると思っています。

私の感じで言うと「目標」よりは「計画」のほうが、もうちょっと数値目標に近づくニュアンスになるように思いますし、この文章の中で1行上には「計画の達成に向けた」と出てきますので、計画の達成に向けて取り組む、その一方で計画を見直すこともあっていいんだということで、「計画」と言葉を揃えることで、言いたいことの意味により近づくような気がします。

こんな言葉の選び方なので、私はそう思いますという意見にすぎませんが。

○中村大学法人連携専門課長 ありがとうございます。

素案を作成するときに「計画の達成に向けた」と書いたときには、本来ここは「中期計画の達成」という、実際の用語に従った形での「計画」という言葉を使っていて、目標のほうだけ一般用語にしてしまったので、混乱を招いてしまったと思ってございます。

そういう意味で、目標よりももう少しターゲットの絞れた言葉で、かといって制度上の用語とも異なるところを大野分科会長にも御相談しながら詰めさせていただく感じでしょうか。すみません。

○杉谷委員 「予定」は駄目なんですか。「予定値」ではなくて。

それがいいというわけでもないですけれども。

確かに「目標」だと大き過ぎるかなという気はするんですよね。何か本質的なところを変えてしまうような印象を与えるかなとは思いますが。

○大野分科会長 例えば「目標の見直し」をやめてしまって、「機動的な意思決定に取り組んでいく」とか何か、そのような表現も良いかもしれません。

○山口委員 スピード感を持ってということですよ。

○杉谷委員 あとは、やはり柔軟に対応してほしいなとは思いますが。最初に決めたものをずっと守らなければいけないということではないということですよ。

○大野分科会長 そうそう。

○十河委員 私は、実効性を高めてほしいという思いがあります。ここで書かれている「自らの経営管理」というのは非常に重要な言葉として、昨年も議論があったと聞いています。やはり、自分たちで自律的に経営管理をするときに、6年間変えない中期目標をやったとかやれていないとか、そこに縛られる仕事は全然実効的ではないので、より効果的に、よりよい仕事をしてもらうためにこういうことをやっていくのであれば必要な見直しはやっていったらいいのではないかと、と思います。そういう思いがあって、「実効性」みたいな言葉がそういうことに結びつくかなという気もしています。

必ずしも数値目標を見直すことだけではなくて、やはり定性的でもいいので、先ほどの議論にもありましたけれども「これが課題で、これをやったんだ」とか、単に「会議をやりました」ではなく、そこでこういう成果が得られたとか、今の課題はこうだから今年度は必ずこれをやろうとか、より具体的な定性目標みたいなものも含めたものを何か自らコミットして、目標を立ててみんなを引っ張って、実際にできた、できなかったを見ていくみたいな、そういうことをぜひやっていただければと思います。そんなニュアンスを、ここでうまく書ければいいなと思います。

○大野分科会長 そうですね。書き方については検討させていただきます。

意味内容としては、皆さん同じような認識をお持ちだと確認できました。

あと何か加えることがあればお願いします。

○梶間委員 下から2行目の「計画」は中期計画のことだというお話が今、中村課長からあったので、どうせならここも「中期計画」と入れてくれるとありがたいと思います。

○大野分科会長 なるほど。はい。

今回の素案で、主語がなかったり、日本語としてちょっと変なところは、後ほど修正しましょう。

他の箇所はいかがでしょうか。

「主な所見」のほうも、4つの機関ごとに書いてありますけれども、それぞれの特徴やアドバンテージを取り上げていて、よろしいかと思うんですけれども。

○梶間委員 今さらですけれども、学校別の所見の【法人運営全般】のところで寄附金の募集が出ているんですね。そんなに寄附金の募集に力を入れているのかは、疑問に思っていました。

ただ、さっきも言ったように、損益計算書を見ると、7割に運営費交付金収益という公費が入っているので、自己資金を自ら確保するという姿勢はとても評価できると思います。

○山口委員 寄附金だけではないですよ、とは私も思っています。法人では、都行政としての人材育成をしっかりとやっていこうといった取組もすごくしておられるなどと思うので、そういうことも書いていいのではないかと思うんですが、いかがですかね。

○中村大学法人連携専門課長 報告書の中で大学法人の運営に関する特記事項としまして、アピールしたい取組ということで出てきましたのが寄附に関することと、もう一つ、働き方改革に関する取組でございます。

今、お話しいただいたように、寄附は実績としてそこまで高くない中で、寄附の取組を取り上げるのはどうかという御指摘であるとすれば、もう一つの候補としては、働き方改革というのが大学法人としてはアピールしたいところではあります。といいながら、所見として何を取り上げるべきかはこの分科会において御議論いただく部分なので、必ずしもここから選ばなければいけないということではないんですけれども、現時点では、資料に記載した項目が候補にはなっているところでございます。

○山口委員 先ほど人材育成と言いましたけれども、働き方改革も含めた人材育成という観点で、働き方改革を入れてもいいと思います。お願いします。

○大野分科会長 だったら、働き方改革でまとめてみますか。

○中村大学法人連携専門課長 そうしますと、今、個別の所見をいただいている部分で申し上げますと、資料1の42ページ。

○梶間委員 今、分科会長の御提案もあったんですけれども、両方だと難しいですか。働き方改革も寄附も書く。

○中村大学法人連携専門課長 そうですね。

○梶間委員 分野が違いますか。

○山口委員 財政と人というのは、もう両輪で大事なのではないですか。

○梶間委員 繰り返になってしまうけれども、運営費交付金収益が7割なのに自分たちで自己資金を確保しようという、その姿勢はとても評価できるところなので、何か出端をくじいてしまうみたいなことはとても残念な気持ちもあったりします。運営費交付金が雪のように無限に天から降ってくるわけではない、だから自分たちで確保しなくてはいけないという、この姿勢はとても評価に値するところなので。

ただ、金額だとか件数だとか、初めの一步にしてもちょっと低過ぎるなと思うところがあります。

○大野分科会長 ほかのところは1項目ずつ挙げているから、法人だけ2項目というのはバランス的にちょっとどうかなという感じがするので、やはり二択かなと思うんですね。

○梶間委員 十河委員がさっき、見る人の視点みたいなことをおっしゃいましたよね。「目標」という言葉を例えば「計画」に置き換えるとか。都民目線から見ると、働き方改革と寄附とどちらが知りたそうですか。

○十河委員 人それぞれでしょうから何ともですけれども、人材のほうが、より広いような。「都立大学なのに寄附なんだ」と一般の人は思うかもしれませんね。どうでしょうかね。

○梶間委員 そうですか。

○小島委員 働き方改革は、いまだに社会的にも注目されているテーマです。

○梶間委員 でも、自己資金を確保しようという姿勢は折りたくないの。

公立学校は本当に立ち位置が難しくて、東京には学校が余るほどあったりしますので、あまり「都立大」、「高専」、「産技大」と言ってしまうと民業圧迫になってしまうし、また、設置主体で言うと国立大学もあって、国立大学と違った独自性も確保しないといけなかったりするの、東京都公立大学法人としての存在価値をきちんと示すのは難しいと思っています。

○十河委員 では、一般の人たちから見ても「あ、公立だけど寄附が出てくるんだな」というのはインパクトはあり、注目される可能性も高いと思います。法人側がそれを推薦しているものを、わざわざ変えなくてもいいかなという気もします。見る人目線でコメントさせていただくとしたら、そんな気もします。

○杉谷委員 昨年度は何を書いたんですか。

○中村大学法人連携専門課長 昨年度は、DEIの推進の取組です。DEI推進宣言、DEI推進基本計画を策定し、教職員の意識改革を促進するための研修や、参加しやすいワークショップ等を実施するといったことを書いてございます。

○杉谷委員 では、どちらの項目を選んでも、重ならないということですね。

○中村大学法人連携専門課長　そうですね、どちらでも重なりはしません。

○大野分科会長　ここに書いてある文言は、結果がよかったというよりは、拡大に努めて取り組んでいるんだということで、頑張るのはこれからだというふうなことだと思います。十河委員がおっしゃったように、やはり外から見たときに、法人が税金に頼らずに一生懸命頑張ろうとしているのかなというメッセージも伝わるかもしれないし、もしよろしければこのままでということではいかがでしょうか。

○梶間委員　自己資金を確保するという姿勢はとても評価できる場所なので、問題ないと思います。

○大野分科会長　よろしいですか。

最上委員、このような議論ですけれども、よろしいでしょうか。

○最上委員　いいと思います。

総括のところでも最初に「東京都公立大学法人（以下「法人」という。）」と記載があるのは、後ろにも「法人」が出てくるのでいいんですが、次の都立大とか産技大は後ろに略語として出てこないの、そこは削ってもいいのではないかと思います。

○大野分科会長　本当ですね。なるほど。

○最上委員　この文章でやっと分かるのは、法人というものがこの大学を運営・管理しているんだということがよく見えてくる。だとすれば、先ほど梶間委員が言ったように、お金の面でも一生懸命頑張って寄附を集めているんだということが分かればいいのかと思います。

○大野分科会長　なるほど。ありがとうございます。

では、今の御議論を踏まえた上で、総括についてはちょっと考えさせていただくことではよろしいでしょうか。御一任いただくことにさせていただきます。

○中村大学法人連携専門課長　御相談させていただければと思います。

○大野分科会長　では、1枚目の「主な所見」については修正なしでよろしいですか。

（異議なし）

○大野分科会長　ありがとうございます。

では、すみません、ちょっと時間がかかってしまいましたけれども、総括も含めまして、本日審議すべきことはこれで終了とさせていただきたいと思います。

よろしいですか。何か御発言があれば。大丈夫でしょうか。

それでは、以上で審議終了とさせていただきます。今後の作業について事務局から御説明をお願いします。

○中村大学法人連携専門課長 本日は長時間にわたり御審議をいただき、ありがとうございます。
した。

本日御議論いただきました内容を踏まえまして、所見の素案の修正をできる限り早く調整いたしまして、送付させていただきたいと考えてございます。

大野分科会長との御相談の時間の兼ね合いもありつつ、大変恐縮ですが、できましたら今週木曜日を目途に御相談させていただきたいと思っております。先生方にも速やかに修正案をお送りしまして、修正点について御確認いただけましたら大変ありがたく思います。次回もまだ審議の機会がございますので、御多忙でその期間に御確認いただくことがなかなか難しいようでしたら、次回に向けてそのタイミング以降でも御意見を頂戴できれば、また関係者とも共有したいと考えてございます。

短い期間でいろいろとお願い事が多く、大変恐縮でございますが、可能な範囲での御協力をお願いできればと思っております。

○大野分科会長 いつもいつも短期間での御対応で申し訳ありませんが、ひとつよろしく願います。

この後、委員に見ていただいて、御意見をいただいた後に所見案を法人に提示いたします。その後、法人からもまた意見が出るかと思っておりますけれども、その調整作業につきましては分科会長である私に御一任いただくという例年どおりのやり方でお認めいただければと思っておりますが、よろしゅうございますね。

(異議なし)

○大野分科会長 ありがとうございます。

御一任いただいた調整の内容につきましては、次回の第4回分科会で私どもから御報告させていただきます。よろしく願います。

最後に、今後のスケジュールについて事務局から願います。

○中村大学法人連携専門課長 ただいま分科会長の御説明にもありましたとおり、本日御審議いただいた内容と法人からの意見申出も併せて分科会長と内容の調整をさせていただきます。最終の所見案を次回、8月7日の第4回公立大学分科会で御審議いただく予定でございます。

その際には、利益処分の案につきましても併せて御報告させていただく予定でございます。

8月7日は午前10時から11時30分までを予定しておりますが、詳細の御案内について追って御連絡させていただきます。

また、当日の午後1時から親会である評価委員会も開催されます。併せてよろしく願います。

いたします。

事務局からは以上でございます。

○大野分科会長 次回は8月7日、午前中がこの分科会、午後が評価委員会ということでまた皆さんに時間をいただいておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、以上をもちまして東京都地方独立行政法人評価委員会令和7年度第3回公立大学分科会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。

午後5時20分 閉会